日语考级丛书（四级）

挑战日本语

教师用书

学ぼう！にほんご 教師用マニュアル

初級1

日本语教育教材开发委员会　编著

60.42
0401893

北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

日语考级丛书(四级)

挑战日本语
教师用书

学ぼう！ にほんご 教師用マニュアル

初級 1

日本语教育教材开发委员会 编著

北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

著作权合同登记　图字: 01-2005-5683 号

中国版の奥付には「Copyright © 西暦年号 by Senmon Kyouiku Publishing Co., Ltd.」と表示すると同時に「中国内の出版・販売権は北京大学出版社が有しており、それについて株式会社専門教育出版は同意した」という内容の中国文を表示するものとします。

图书在版编目(CIP)数据

挑战日本语 教师用书. 初级 1/ 日本语教育教材开发委员会　编著. —北京: 北京大学出版社, 2006. 1

ISBN 7-301-09790-5

I. 挑…　II. 日…　III. 日语—水平考试—教学参考资料　IV. H360. 41

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2005)第 138028 号

书　　名: 挑战日本语　教师用书

著作责任者: 日本语教育教材开发委员会　编著

责 任 编 辑: 许耀明

标 准 书 号: ISBN 7-301-09790-5/H・1562

出 版 发 行: 北京大学出版社

地　　址: 北京市海淀区成府路205号　100871

网　　址: http://cbs.pku.edu.cn

电　　话: 邮购部 62752015　发行部 62750672　编辑部 62765014

电 子 邮 箱: zpup@pup.pku.edu.cn

排　版　者: 华伦图文制作中心

印　刷　者: 涿州市星河印刷有限公司

经　销　者: 新华书店

787 毫米×1092 毫米　16 开本　9.25 印张　230 千字

2006 年 1 月第 1 版　2006 年 1 月第 1 次印刷

定　　价: 20.00 元

目次

はじめに 4

本書の使い方 5

第1課 6
第2課 12
第3課 16
第4課 22
第5課 30
第6課 38
第7課 46
第8課 52
第9課 58
第10課 66
第11課 72
第12課 82
第13課 90
第14課 96
第15課 100
第16課 108
第17課 116
第18課 124
第19課 132
第20課 140

日语考级丛书(四级)

挑战日本语
教师用书

学ぼう！ にほんご 教師用マニュアル

初級 1

日本语教育教材开发委员会 编著

北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

著作权合同登记　图字: 01-2005-5683 号

中国版の奥付には「Copyright © 西暦年号 by Senmon Kyouiku Publishing Co., Ltd.」と表示すると同時に「中国内の出版・販売権は北京大学出版社が有しており、それについて株式会社専門教育出版は同意した」という内容の中国文を表示するものとします。

图书在版编目(CIP)数据

挑战日本语 教师用书. 初级 1/ 日本语教育教材开发委员会　编著. —北京: 北京大学出版社, 2006. 1

ISBN 7-301-09790-5

I. 挑…　II. 日…　III. 日语—水平考试—教学参考资料　IV. H360. 41

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2005)第 138028 号

书　　名: 挑战日本语　教师用书

著作责任者: 日本语教育教材开发委员会　编著

责 任 编 辑: 许耀明

标 准 书 号: ISBN 7-301-09790-5/H・1562

出 版 发 行: 北京大学出版社

地　　址: 北京市海淀区成府路205号　100871

网　　址: http://cbs.pku.edu.cn

电　　话: 邮购部 62752015　发行部 62750672　编辑部 62765014

电 子 邮 箱: zpup@pup.pku.edu.cn

排　版　者: 华伦图文制作中心

印　刷　者: 涿州市星河印刷有限公司

经　销　者: 新华书店

787 毫米×1092 毫米　16 开本　9.25 印张　230 千字

2006 年 1 月第 1 版　2006 年 1 月第 1 次印刷

定　　价: 20.00 元

目次

はじめに 4

本書の使い方 5

第1課 6
第2課 12
第3課 16
第4課 22
第5課 30
第6課 38
第7課 46
第8課 52
第9課 58
第10課 66
第11課 72
第12課 82
第13課 90
第14課 96
第15課 100
第16課 108
第17課 116
第18課 124
第19課 132
第20課 140

はじめに

本書は「学ぼう！　にほんご」シリーズの教師用マニュアルです。教師用マニュアルは、初級１、２の２冊から成り立っており、本書は初級１の教師用マニュアルです。

本書は、日本語を教える皆さんが、授業の中で、教科書を使ってどのように教えていけばよいかという、基本的なアドバイス、ストラテジーを示して、授業進行をスムーズに行なっていただくことを目的としました。

各課構成は、文型等の学習項目、モデル授業プラン、学習項目導入におけるアドバイス、その具体的な導入の例、各練習における指導のポイント、新出語彙分類表の、６項目からなり、それぞれが区分けされているので必要な情報や、重要箇所をスキャニングしやすいように並べられています。新出語彙も、品詞のみではなく、表現やその他の慣用などでも分類されているため、ロールプレイやシナリオドラマのような練習でもすばやくキューを提出することができます。

また、本書は、絵カード、フラッシュカードの提示場面にも言及しておりますので、練習問題集と合わせて有意義なクラス活動の進行にご役立てください。あくまで基本的な進行マニュアルとして作成されておりますので、皆さんの経験、アイデアを加えてより充実した教室活動の実現ができることを編著者一同、心より願っております。

2005年 7月

編著者代表記す

本書の使い方

各ページの左上にテキストの課とページを記し、以下、該当ページの学習項目、モデル授業プラン、導入アドバイス、導入例、指導のポイント、新出語彙を原則として各見開き2ページで提示した。

学習項目

テキストの該当ページで学習する項目を列挙した。そのページで導入すべき項目はここにすべて挙げてある。

モデル授業プラン

該当ページをもとに実際に行う授業を想定し、一つの授業例としてモデル授業プランを提示した。これを見れば、教師はその授業の全体的な流れや手順をイメージしたり把握したりすることができる。

導入アドバイス

導入する際に教師が注意すべき点や、事前に準備しておいた方がよいこと、学生が陥りやすい誤用や学生からよく出る質問などについて記述してある。

導入例

導入項目の導入例を具体的に例示した。その項目を教える際、特に、初めて教える場合や良いアイディアが浮かばないときにはぜひ参考にしていただき、各自工夫に満ちた導入を行ってほしい。

指導のポイント

テキストの該当ページにある練習、対話、やってみよう、会話について、それぞれの具体的な進め方を示した。練習を進める際、注意すべき点は「注意」として示した。さらに、「発展」として、単純な変換練習にとどまらない、より活発な授業を行うための発展・応用練習の具体例をできるだけ多く提示した。

新出語彙

該当ページにおける新出語彙を「名詞」「動詞」などの品詞に分けて提示した。授業準備の際、そのページでの新出語彙を教師が把握するときや、実際の導入の際に、品詞ごとにまとめて提示するのに役立つ。

※テキストP.12～16「学習をはじめるまえに」では、テキストに出てくる登場人物の紹介、数と呼び方、あいさつ用語、教室用語、身のまわりのものの名称について、イラストと共に示してある。学習開始前のオリエンテーションなど、適宜ご利用頂きたい。

Text第1課 P17～P19

学習項目

・～は～です。
・～は〈名前・国籍・身分・職業・年令〉です。
・～は〈名前・国籍・身分・職業・年令〉ではありません。
・～は〈名前・国籍・身分・職業・年令〉ですか。
・～も～です。／～も～ですか。
・～はだれですか。／～はどなたですか。

モデル授業プラン

1. 新出語彙（名詞）導入
2. 「～は～です／ではありません／ですか」導入
3. 基本文1、2、3
4. 練習1、2-1
5. 「～も～です」導入
6. 練習2-2
7. 「誰ですか」導入
8. 練習2-3
9. 対話
10. 発展

導入アドバイス

1. 教師は学生の名前や国名（漢字やアルファベットで書かれたもの）の読み方を調べ、ルビもふってあげられるように準備しておくとよいでしょう。
2. 次の使い方にも注意してください。
「あなた」→目上の人に使うと失礼。
「あなたは誰ですか」→相手に直接聞くと失礼。
「あの人は誰ですか」→友だちに第三者について聞く。
「あの方はどなたですか」→目上の人に第三者（目上の場合が多い）について聞く。
「おいくつですか」→子どもの年令を聞く時、必要な時以外あまり質問することはない。

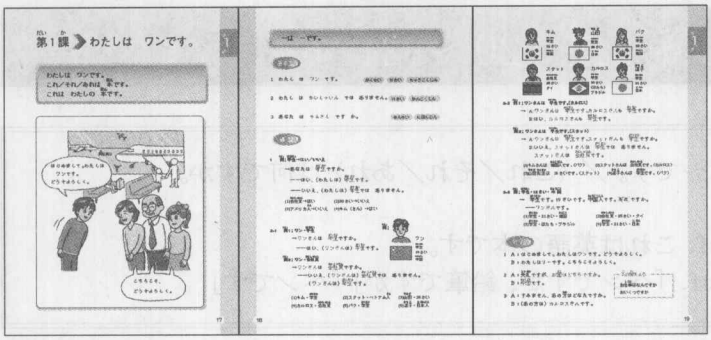
＊相手に直接名前を聞きたいとき：
→「失礼ですが、お名前は？」
＊よく聞き取れないとき：
→「すみません。もう一度お願いします」

導入例 1

1. 教師は自分の名前を板書し「私は○○です」。世界地図の日本を指して「日本人です」と自己紹介する。
2. 学生に紙を渡し、名前を書かせる。その紙を全員に見せて「私は～です」と発表させる。
3. 次に、世界地図で自国を指させ「私は～人です」を発表させる。その後、国名もカードに記入させる。

導入例 2

1. 学生が書いたカードを「～さん、カードください」と言って集める（「～さん」の導入になる）。
2. 集めたカードを学生に返す。この時、学生の名前を忘れた振りをして学生全員のカードを見せ「あなたは～さん／～人ですか」と質問。学生に「はい、～です」「いいえ、～ではありません」を使って答えさせる。



指導のポイント

P18 練習 1

・初めての練習なので問題のやり方を丁寧に指示し理解させる。例題だけでは練習内容が分からない時は（1）もモデルを示す。

・学生から「～じゃありません」について聞かれたら、ジェスチャー等で丁寧さに差があることを提示。

注意：（4）学生はつられて「はい、わたしはキムさんです」に、なりがちなので、よく練習。

練習 2-1

・問題のイラストは次ページにあるので、学生がちゃんと着目できているかどうか確認する。

注意：「～才」の言い方

1才（いっさい）、8才（はっさい）、10才（じゅっさい）、11才（じゅういっさい）、18才（じゅうはっさい）、20才（はたち）、21才（にじゅういっさい）

P19 練習 2-2

・この練習では「～も～ですか」と質問し、肯定の答えでは「はい、～も～です」否定の答えでは「～は～ではありません」になる練習をする。

「も」「は」の使い分けに注意。

・「～は～です」の導入の後、同じ国籍の学生で「～も～人です」を提示しておくとよい。

練習 2-3

・身分、年令、国をヒントに「誰ですか」を使ってイラストの人物を見つける。

練習例：例の文「学生です。19歳です。中国人です」を読む。次に「誰ですか」と学生に質問。

対話

・導入アドバイス2. を参照し、表現事項を導入する。「お国はどちらですか」は文法的な説明はせず、国を聞く表現として導入する。

対話 2、3

・「お仕事はなんですか」の答えとして代表的な職種を絵カードで提示。（例；教師、警察官、医師、パン屋、コックなど）

新出語彙

P17 扉

【名詞】 わたし　本

【指示】 これ　それ　あれ

【表現】 はじめまして　どうぞ　よろしく　こちらこそ

P18 ～

【名詞】 あなた　あの人　あの方　学生　会社員　先生　仕事　中国　韓国　日本　アメリカ　ベトナム　タイ　ブラジル　国

【疑問詞】 だれ　どちら　どなた　いくつ

【表現】 おねがいします　はい　いいえ　すみません　失礼ですが　おいくつですか　なんですか

【その他】（人名）+さん　（国名）+人　（年令）+歳　はたち

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

Text第1課 P20～P21

学習項目

・〈これ／それ／あれ〉は～です。／〈これ／それ／あれ〉は何ですか。
・～は～の～です。
・～は何の～ですか。　cf. これは英語の本です。
・～ですか、～ですか。 cf.「ペンですか、鉛筆ですか」「ペンです」

モデル授業プラン

1. 新出語彙（名詞）と「これ／それ／あれは～です同時に導入
2.「これ／それ／あれは何ですか」導入
3. 基本文1、2、3
4. 練習1
5.「いいえ、ちがいます」導入
6. 練習2、3
7.「～の～（英語の本）です／何の～（何の本）ですか」導入
8. 基本文4
9. 練習4
10. 対話
11.「～ですか、～ですか」導入
12. やってみよう
13. 発展

導入アドバイス

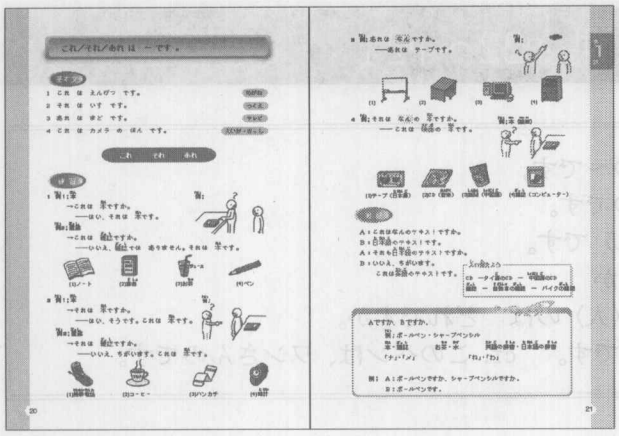
・「これ」は話し手の領域、「それ」は聞き手の領域、「あれ」は話し手、聞き手の領域外にあるものだということを理解させます。
・「近く、遠く」という概念だけで導入すると学生は自分の近くにある物はすべて「これ」だと誤解する場合があります。導入時、分かりやすくするために「これ」と「それ」が示す位置をかなり離して提示することが多く、それによって誤解されるケースです。このような誤用を防ぐためには、学生の机のすぐ前に立って、学生の持ち物について「それはなんですか」と質問したり、学生のすぐそばに持っていったものに対して「それはなんですか」の質問をさせるなど、かなり近いものでも「それ」を使うことを示すとよいでしょう。

導入例 1

・実物を用いて、そのものを指差しながら「これは本です」「これはペンです」「これは机です」という。学生をひとり教師の近くに立たせ、ものを持たせる。Tが「それはノートです」「それは辞書です」さらに、「これ・それ」の違いを示すために、「これは本です。それはノートです」と繰り返す。次にできるだけ両者から遠いところに物を置き、教師と学生は並んで立ち、遠くのものを指差して「あれは○○です」を導入。

導入例 2

・教師がものを持って他の学生の近くに行き、学生の机の上にあるものについて質問する。T「これは本です。それはなんですか」S「これはノートです。」ここで、Sが「それは…」と発話した場合には、「これは」と訂正。何人か繰り返すことにより、全体にも理解させる。「あれ」についても同様に行う。



指導のポイント

P20 練習1

・イラストを見て、答を言う練習。文字で表記してあるものとイラストの絵が一致するかしないかで答えが変わる。一致している場合は「はい、そうです」、違う場合は「いいえ、～」と答える。

・「これ／それ」が的確に使えるように練習する。ペアで練習する時は、教科書を一冊どちらかの学生の近くに置き、実際の状況にあわせてQAをやらせるとよい。

練習2

・練習1と同様に練習。

発展：「はい、そうです」は、いろいろな質問の答としてよく使われる。この練習が終わったら、前出の「あなたは～さん／～人ですか」の質問にも、これで答える練習をするとよい。

・教室内にあるもの等で実際に練習の幅を広げる。さらに、次のような練習もできるとよい。→学生はペアで教室内を移動しながら様々な位置にあるものについてQAをする。教師がそれをチェックする。

練習3

（ペアプラクティスで練習）

発展1：CD、雑誌、テープ等内容の分野が分かりやすく語彙も導入しやすいものを用意して、「～の～」を学生に質問させたり、学生の持ち物について質問したりする。

発展2：本来この質問は関心のあるものに使われる。最後に、学生が初めて目にするもの、興味を持ちそうなものを提示し、「それはなんですか」という発話が自然に出てくるかどうか試してみるとよい。

やってみよう

・物の名が的確に理解できているかをチェックする。表記してあるもののどちらかを提示して、学生に正しい方の名前を言わせる。テキストにあるもの以外の物も使用し、名詞の再チェックを行う。「ナ」「メ」等の表記に関しては板書をするとよい。次にディクテーションをさせて、正しい表記ができているか確認してもよい。

新出語彙

【名詞】鉛筆　ペン　ボールペン　シャープペンシル　ノート　テキスト　辞書　ホワイトボード　めがね　携帯電話　タオル　ハンカチ　時計　雑誌　新聞　映画　音楽　いす　机　まど　窓　棚　水　ジュース　お茶　紅茶　コーヒー　テレビ　カメラ　コンピューター　テープ　CD　自動車　バイク　英語

【表現】そうです　ちがいます

【疑問詞】何（なに／なん）

【その他】～語

Text第1課 P22～P24

学習項目

・〈これ／それ／あれ〉は〈人〉の～です。
・〈これ／それ／あれ〉は〈人〉のです。
・〈人〉の～は〈これ／それ／あれ〉です。
・～は誰の～ですか。／誰のですか
・〈人〉の～は　どれですか。／〈人〉のは　どれですか。
・この／その／あの～は〈人〉のです。　cf. このペンは、ワンさんのです。

モデル授業プラン

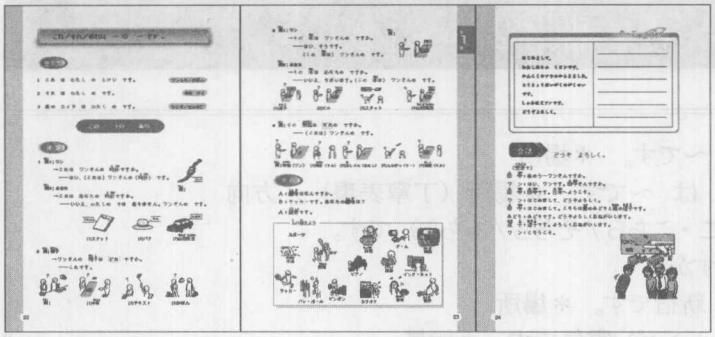
1. 新出語彙（名詞）導入
2.「～の～(私の本)です／～の(わたしの)です」導入
・「～はだれの～ですか／だれのですか」導入
・「～はどれですか」導入
3. 基本文1、2
4. 練習1、2
5.「この／その／あの～」導入
6. 練習3、4
7. 対話
8. やってみよう
9. 会話

導入アドバイス

・「これ／それ／あれ」に対して「このN・あのN・そのN」が初めて出てくるところです。「これ」と「この」を混同して「×このは時計です」などの誤用が出てくることがあります。「この／その／あの」の導入の際には常に名詞とともに提示し、「これ／それ／あれ」との違いをよく理解させるようにしましょう。
・「どれ」は3つ以上の中から選択する場合に使うので、導入の際には3つ以上のものを並べた上で導入します。(指導のポイントP22練習2参照)

導入例

1. 教師はわざとペンを忘れた振りをして、「ちょっと、いいですか」と丁寧に言ってから学生にペンを借りる。鉛筆、消しゴム等も同様に学生から借りて（なるべく多くの学生から借りるように工夫）ちょっとだけ使う。
2. 返そうとして、誰の物か忘れた振り（困ったというジェスチャー）をして「このペンは○○さんのペンですか」
3. 貸した学生が自分のだという合図をしたら「ああ、これは○○さんのペンです」。学生全体にそれを示す。
4. 同様にいくつかの借りたものを返す。次第に「ああ、これは○○さんのです」の形に変えて、物の名前を言わなくてもよい状況（実際に相手がそのものを見ている）を理解させる。



P23 練習 3、4

発展：テキストの練習の後、「この/あの～は～ですか」「この/あの～はだれのですか」を実際にある物を使って応答練習。

対話

・イラスト以外にも「買い物、料理、お菓子作り、旅行」など、学生からでそうな趣味を提示し、学生の実際の趣味が答えられるようにするとよい。中には「趣味はありません」と答える学生がいるかもしれないが、それも答えの一つなので受け入れる。クラスのレベルに応じて「寝ること、食べること」なども導入可。

やってみよう

・例文を読んで教師が内容について質問し、内容理解ができたら、学生にも同様の文を書くように指示する。書いたものをチェックして、発表させる。

会話

・見ないで言えるように練習し、できるようになったら、ロールプレイをさせる。

注意：「あのう…」は呼びかけの言葉。呼びかける相手が、探している本人かどうかの確信がないので、ひかえめに呼びかけている。発音、ジェスチャーでそのことを示す。普通は「あの、すみません。」のように「あの、～」となり、語尾を伸ばさない。前出の「あの＋名詞」と混乱しないように注意する。

指導のポイント

P22 練習 1

・イラストの名前の部分を見て所有者を確認する問題。まずイラストの絵の中の名前と、イラストの下に書かれた名前が同じかどうかをよく確認する。イラストの下の名前で質問し、イラスト内の名前が一致している場合は「はい、～」。違っている場合は「いいえ、～」になる。このやり方をよく学生に理解させてから、ペアで練習させるとよい。

練習 2

注意：イラストは品物がすべて3つずつ置かれているが、3個以上の物の中から一つを選択する場合は「どれ」を使うので、導入時には3個以上、多量の物を使うとよい。

発展：「どれ」が理解できたら二者択一の場合は「どちら」を使うことを提示。二つの物を並べて「どちらがあなたの～ですか」を提示する。ここで導入すると「どれ」と「どちら」の使用法の違いがはっきり分かる。

新出語彙

【名詞】 かばん　ラジオ　帽子　手帳　筆箱　消しゴム　スポーツ　サッカー　水泳　野球　バレーボール　ピンポン　趣味　ピアノ　カラオケ　ゲーム　インターネット　散歩　読書　料理

【指示】 あの　この　その

【疑問詞】 どれ

P24　会話

【名詞】 大学　空港　妻　娘

【表現】 あのう　ようこそ　お願いします

Text 第2課 P25～P29

学習項目

・〈ここ/そこ/あそこ〉は　～です。　＊場所
・〈こちら/そちら/あちら〉は　～です。＊場所（丁寧表現）／方向
・～は　〈ここ/そこ/あそこ・こちら/そちら/あちら〉です。
・～は　〈どこ/どちら〉ですか。
cf. 会社はどちらですか。新宿です。＊場所
cf. 会社はどちらですか。ジャパン電気です。＊所属

モデル授業プラン

1. 新出語彙（施設、建物）と「ここ／そこ／あそこは～です」同時に導入
2. 「～はどこですか」導入
3. 基本文1、2、3
4. 練習1
5. 「こちら／そちら／あちら／」（方向、丁寧に場所を示す）導入
6. 練習2、3、4
7. 「どちらですか」（場所、所属）導入
8. 練習4
9. 対話
10. やってみよう
11. 発展

導入アドバイス

・「ここ／そこ／あそこ」は場所、「こちら／そちら／あちら」は方向を示す指示語だと言うことを理解させます。学校案内をすると効果的です。教師や学生の立つ位置によく注意し、「ここ／そこ／あそこ」がすべて使えるような状況を作ります。

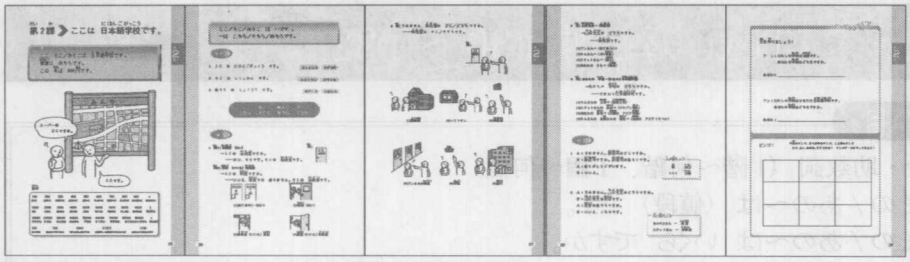
発展アドバイス

・「これ／それ／あれ」と「ここ／そこ／あそこ」の違いを概念的には理解していても似ている語彙なので言い間違えに注意させます。「ここ／そこ／あそこ」の学習が終わったら「これ／それ／あれ」を含めた総合的な練習をすると、より定着がよいでしょう。
・「こっち／そっち／あっち」は出ていないが、使用頻度が高い語彙なので、ここで提示しておいてもよいでしょう。その際はジェスチャー等で、「こちら／そちら／あちら」の方が丁寧な言い方だということを示しましょう。

導入例

1. 教室、事務室、おてあらい（トイレ）、食堂、図書館など学校内の場所名を絵カードで導入しておく。
2. 最初に、「ここは教室です」と教室内を指差しながら言い、意味を理解させる。
3. 教室を少し出て、教師が学生を実際の場所に連れていき「ここ・そこ・あそこ」を導入していく。事務室、お手洗いなどの前に行き、「ここは事務室です」「ここはお手洗いです」と言う。次に、学生に少し離れた別の場所に立ってもらい、「ここは事務室です」「そこは教室です」と言う。さらに、全員から離れたところ(遠くに見えるところでもよい)を指し「あそこは図書館です」と提示する。教師の発話が理解できたのを確認した後で、学生に「ここは？」「そこは？」と聞き、「ここは事務室です」等の答えを引き出す。

＊「○さん、あそこは教室ですか」「はい、そうです。あそこは教室です」の文型（P26練習1）へそのままつなげることもできる。
＊教室内から出られない場合は、建物内部を描いた絵カードや地図などでも導入可能。



指導のポイント

P26 練習 1

・イラストを見て、場所の確認を行う練習。一つの質問に対して「はい」「いいえ」どちらの答も言う。全体でドリルを行うとき、「はい」の答を指示するときは手で○を描き、「いいえ」の答を指示するときは手と手を交差させて×を示すと言ったジェスチャーをすると効率がよい。「ここ」「そこ」の使い方に注意させる。

P27 練習 2

・イラストを見て、位置を確認し、「ここ」「そこ」「どこ」のどの使用が適切か考えて答える問題。質問に使用する語彙は「どこ」でも「どちら」でもよい。友だち同士なら「どこ」、教師や目上の人には「どちら」を使うように指導してもよい。

P28 練習 3

・質問内容は「～はどこですか」と同じだが、「どちらですか」はより丁寧な表現となる。練習は「人」がどこにいるかを問う内容で、丁寧さが必要であることを示している。話し方やジェスチャーで丁寧であることを提示するとよい。

注意：部屋番号の言い方「201」は「にひゃくいち」はまだ未習なので、ここでは「に、ぜろ、いち」もしくは「に、まる、いち」としておくとよい。

練習 4

・同じ「どちら」を使って所属を聞く質問の練習。

対話 1

・ここで使われている「いいえ」は、「違う」の意味ではなく「どういたしまして」の意。クラスのレベルに応じて「どういたしまして」を導入してもよい。

やってみよう「ビンゴ」

・クラスのレベルに応じて以下のような指導例が考えられる。

例1：1.ビンゴのやり方を説明する。教師が板書してモデルを示す。2.教師は特に覚えさせたい単語を言って、それを学生が教科書「ビンゴ」の枠の好きな箇所にディクテーションする。3.教師は書かせた単語をアトランダムに読み上げる。

例2：1.「ビンゴ」の枠の中に自由に99以下の数字を書かせる。2.教師はアトランダムに数を言っていく。(この練習は数の聞き取りに効果的)

新出語彙

P25 扉
【名詞】学校　教室　スーパー　数字
【指示】ここ　そこ　あそこ　あちら
【疑問詞】どこ
【その他】～円
P26～
【名詞】受付　入口　出口　事務室　会議室　図書室　おてあらい　トイレ　図書館　レストラン　食堂　デパート　映画館　銀行　屋上　うち　会社　郵便局　駅　公園　お姉さん
【指示】こちら　そちら
【表現】ありがとうございます　いいえ

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com